

2012年度 早稲田大学大学院法務研究科

法学既修者試験 論述試験

民法

(問題)

問題1

Aは、自己が所有する絵画（以下、「甲絵画」という。）を、ある著名な画家が制作したものであると説明して代金200万円でBに売った。この画家の絵画は、専門家の間で評価が高く、通常は1000万円を下らない価格で取引されている。

甲絵画の引渡しをAから受けたBは、その保管を倉庫業者のCに託したが、Cの不十分な警備態勢の間隙を衝いて、Dが甲絵画を盗んだ。これを贋作であると見抜いたDは、精巧に作られた模造品であると説明して甲絵画を代金500万円でEに売って引き渡した。

次の（１）～（３）に解答しなさい。

- （１）Bは、Eに対し、どのような請求をすることができるか。（30点）
- （２）Aは、Dに対し、どのような前提のもとで、どのような請求をすることができるか。（30点）
- （３）Cは、Dに対し、どのような前提のもとで、どのような請求をすることができるか。（15点）

問題2

A（30歳）は、C（60歳）の所有する自動車の運転手として雇用された者であり、D（25歳）は、Cの甥である。2010年4月1日に、Aは、Cと、たまたまCを訪問していたDを乗せて自動車を運転していたところ、B（当時9歳でEとFの子）が運転する自転車が道路に飛び出してきたため、衝突しそうになり、これを回避するため、電信柱に激突した。そのため、Cは脳に損傷を負い、Dは即死した。同事故については、A、B双方に不注意があったことが認められている。

Cは、直ちに病院に運ばれ手術を受け、同年9月1日にはCの症状は固定したが、その後も、知的障害、四肢の麻痺により寝たきりの状態になった。その後、同年10月1日にCには胃がんが発覚し、同年12月1日にそれが原因で死亡した。

Cの妻であるGと、Dの準婚的内縁関係にある妻Hは、各損害の賠償について、B、E、Fと交渉してきたが、交渉が決裂したため、2011年6月1日に至り、損害賠償請求訴訟を提起しようと考えている。

次の（１）および（２）に解答しなさい。

- （１）Gは、B、E、Fに対し、どのような請求をすることができるか。（55点）
- （２）Hは、B、E、Fに対し、どのような請求をすることができるか。（20点）

〔以下余白〕